が，国により程度はまちまちであり，各国の認識・取り組みにも濃淡が見られる．議論の中で，国際人口移動により国内の高齢化が進み，ケアをする子どもがいないという問題，また海外で働いた後で貯金もなく戻ってきた高齢者が多い問題等，移民と関連した問題点がいくつかの国から提示されたのは印象的であった．また委員会の一環で，ハノイにある Bach Nien Thien Duc（百年天徳）ケアセンターという高齢者施設を訪問した．自然を生かし，空調も用いないという方針で設計された施設に，110人のお年寄りが暮らしていた．ハノイには現在12箇所しか高齢者施設がないということで，この施設も４年前に定員数を満たしてしまい，20名の待機者がいるという．ベトナムの高齢者数が増加するなか，家族介護の支援と平行して施設の整備も喫緊の課題となっている状況を目の当たりにした．

（林　玲子　記）

第12回社会保障国際論壇（大分）

第12回社会保障国際論壇（The 12th International Conference on Social Security）が，大分大学が開催校となって，９月10日から11日にかけて大分市で開催された．今回のテーマは「人口・家族の変容と社会保障」であった．この論壇（フォーラム）は，2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会，韓国中央大学などの協力により始まり，以後，日本，中国，韓国の研究者が毎年持ち回りで行っており，今回は４年ぶりの日本での開催である．今回は基調講演のほか，テーマ別セッションとして「医療」，「年金」，「介護」，「社会保障一般」，「貧困と公的扶助」，「社会サービスと地域社会」，「家族の変容と社会保障」，「若手セッション」などで研究発表や議論が行われた．これらのセッションでは，医療，年金，介護といった人口高齢化に関係する社会保障に関する研究報告の他，家族の変容という人口に最も関係が深いセッションでの研究報告も行われた．日本，中国，韓国などから100名を超える参加者があった．当研究所からは２名が参加し，以下の報告を行った．

小島克久（国際関係部第二室長）「台湾における外国人介護労働者の現状―地域別に見た分析―」（社会サービスと地域社会）

是川　夕（人口動向研究部主任研究官）“A Socio-economic Status of Immigrant Women in the Gendered Migratory Processes; Are They "Double Disadvantaged" ?”（家族の変容と社会保障：英語セッション）

なお，次回の「社会保障国際論壇」は2017年９月に中国の南京で開催される予定である．

（小島克久　記）

第26回日本家族社会学会大会

第26回日本家族社会学会大会が2016年９月10～11日に早稲田大学戸山キャンパス（東京都新宿区）で開催された．大会は５つのテーマセッション，２つの国際セッション，９つの自由報告セッション，１つのラウンドテーブル，「専門家による家族介入の現在―家族を外側から支える実践―」と題する公開シンポジウムで構成され，各セッションと公開シンポジウムでは計68件の報告があった．

家族を標榜する学会の大会ということもあって，人口現象に関連した報告は多かった．例えば，テー